

# 西大和つうしん

2010年 9月号

No.339



真砂岳分岐から水晶に至る稜線（8/2）

奈良県勤労者山岳連盟  
西大和山の会

# 西大和つうしん

第339号(2010年9月号)

## 【目次】

山行計画	-----	1
9月度カレンダー	-----	2
自主山行 北アルプス 白馬岳(杉村)	-----	3・4
例会山行 北アルプス 野口五郎岳～水晶岳(藤井)	--	5・6
例会山行 会津の山 会津駒ヶ岳・燧ヶ岳(三島)	----	7・8
室内例会だより	-----	9

## 【山行計画】

山行	山名	担当
例会山行1	9月12日(日) (播州の山) 後山 【集合】 上牧役場駐車場 6:00	田中 (悦)
公開山行	9月19日(日) 高取山～飛鳥 【集合】	藤本
例会山行2	9月23日(祝) (伊勢の山) 掘坂山～観音岳 【集合】 上牧役場駐車場 6:30	田中 (初)

# 9月度 西大和山の会 カレンダー

日	曜	山 行	その他行事
1日	水		
2日	木		
3日	金		
4日	土		
5日	日		
6日	月		
7日	火		
8日	水		
9日	木		
10日	金		
11日	土		県連理事会
12日	日	例会山行1 <b>後山</b> (担当:田中悦)	
13日	月		
14日	火		
15日	水		
16日	木		
17日	金		
18日	土		
19日	日	公開山行 <b>高取山~飛鳥</b> (担当:藤本)	
20日	月		
21日	火		
22日	水		会報原稿締切日
23日	木	例会山行2 <b>堀坂山~観音岳</b> (担当:田中初)	
24日	金		
25日	土		
26日	日	県連チャレンジハイク <b>諭鶴羽山</b>	
27日	月		
28日	火		
29日	水		<b>室内例会</b>
30日	木		

## 【10月度予定】

10(日) -11(月)	例会山行1 (担当:島崎) <b>越前 三の峰</b>	23(土) -24(日)	例会山行2 (担当:三島) <b>金糞山</b>
17(日)	婦人部山行 (担当:勝尾) <b>武奈ヶ岳</b>	27(水)	<b>室内例会</b>

自主山行

北アルプス《白馬岳》

【日 程】 7月29日～30日

【参加者】 L石田・辻・杉村・(新座山の会1名)

【コースタイム】

《7/29》蓮華温泉発(5:50)→白馬大池(9:40/10:25)→小蓮華岳  
(12:45)→三国境(13:05)→白馬岳山頂(14:05)→白馬山荘 14:15  
《7/30》山荘発(6:15)→白馬岳山頂(6:30)→三国境(7:05/15)→  
引き返し地点(7:50)→三国境(8:40)→小蓮華岳(9:30)→  
白馬大池(10:45/11:30)→天狗の庭(12:50)→蓮華温泉(14:30)

夏山山行、蓮華温泉～白馬岳～雪倉岳～朝日岳～蓮華温泉のテント泊縦走予定でしたが残念ながら気象条件悪化により大きく変更を余儀なくさせられました。

《7/28》蓮華温泉にてテント泊、夕食後真っ暗な山道をヘッドライトを頼りに15分位上った所にある露天風呂「仙気の湯」へ、暗さとにこり湯で安心してIさんTさん達と温泉に満喫する。

《7/29》夜半より雨が降り出す。明日からが心配。案の定小雨の朝、気を持ち直して白馬岳へ出発。4.5人用テントなどIさんTさんに頼ってしまい運んで頂く。私は食担、それも分けて頂き軽くて申し訳ない気持。

昨日の露天風呂近くの山道を上る「今の時間だと明るいから無理ね」など会話が弾み、まだまだ軽やかな足どり。ハツラツとした中学生高校生達も多く上っており元気に挨拶を交わす。

ジグザグの登山道、岩石の急登が続く、そうする内に視界が開け天狗の庭へ高山植物の花々も今が盛りとあちこちに綺麗に咲き、正面に美しい雪倉岳、朝日岳方面の山々が一望できた。また山の緑と残雪コントラストも美しい。

しかし山の天気はわからない。見ている間に雨が……一段と激しくなり足もザックも途端に重くなって来る。時々休憩を取りながらだったが休むと体がすぐに冷え寒くて寒くて。

期待していた白馬大池、小蓮華岳、白馬岳山頂はいずれも見る事が出来ず残念。

体も濡れて寒くなり、服も乾燥出来る事からテント泊から小屋泊まりに変更。テント派のTさん女性軍に追い込まれる。暖かい部屋で明日からの山行話し合う。一応三国境まで行きその時点で再度協議することとなった。自炊のしゃぶしゃぶ皆でつつくと美味しい。

《7/30》またまたガスと小雨の中、白馬山荘出発。

歩きにくい露岩を上り再度白馬岳山頂へ、今日も視界なし。山頂から馬の背の岩を越えての分岐点に達し三国境で晴れ間が出て明るくなったので皆で話し合い、結果雪倉岳に進むことにする。しかしまたすぐに雨今までの天気はなんなの。

一時間程歩くが強く降り続く。また話し合った。明日の事を考え引き返すことに決まった。朝日岳より蓮華温泉までの下山途中三箇所の徒渉を必要とするが、雨が降ったので渉る事が出来るかどうかわからないと……。

実は一日テント泊を多くとれば確実に縦走出来たのだが私の無知で予備日を取っていなかった。皆に迷惑をかけた次第。落ち込む。

白馬大池付近では天気も回復、それは思ったより大きく碧くただよい、昨日見られなかったお花畑は満開の綺麗な花、花、花。花を見ていて胸のつかえが少し取れたような、そして残雪のある風景。「あー、本に載っていた景色だわ」

今回はハプニングが多く登山技術は勿論必要だがその時点での精神面が重要なのでは……うーん、むずかしい。

考えさせられる山行でした。

(記：杉村)

平日山行

## 北アルプス 《烏帽子岳～野口五郎岳～水晶岳》

【日程】 7月30日(金)夜～8月3日(火)

【参加者】 L 藤井、島崎、村田

【コースタイム】

《7/30》王寺(20:00)～新大阪(21:30)夜行バス

《7/31》信濃大町(5:00/5:20)タクシー高瀬ダム(6:30)～水場  
(6:55/7:00)～三角点(10:18)～烏帽子小屋(12:30/13:10)～  
烏帽子岳(14:10/14:20)～烏帽子小屋(15:10)

《8/1》烏帽子小屋(5:30)～三ッ岳(6:45/6:50)～野口五郎岳  
(9:22/9:45)～水晶小屋(13:40/14:26)～水晶岳(15:06/15:11)  
～水晶小屋(15:45)

《8/2》水晶小屋(5:40)～湯俣分岐(8:00)～南真砂岳～(9:20/9:50)  
～湯俣岳(12:10/12:20)～湯俣温泉(15:00)

《8/3》湯俣温泉(6:40)～名無小屋(7:45)～高瀬ダム(10:00)～  
葛温泉～信濃大町(15:20)バス～王寺(22:30)

31日(土)晴れ時々くもり

高瀬ダムから吊橋を渡り、水場を過ぎると、北アルプス三大急登の  
ブナ立尾根が始まる。その名のとおり、樹林帯の中のしんどい急登が  
続く。汗がまさに滝のように滴り落ちる。

尾根は12に分割されていて、一つずつ休憩をとりながら、喘ぎなが  
ら登っていく。センジュガンピ、ソバナ、ホトギスなど可憐な花が癒して  
くれる。6時間かかってようやく、紫のイワギキョウが群生している烏帽  
子小屋に到着。

小屋で一休みして、コマクサ、ハクサンシャクナゲなど高山植物が咲  
く道をルンルン気分で烏帽子岳に向かう。岩場を登り、帽子の先っぽに  
立った。

天気は悪くないが遠望はきかなかった。

小屋に戻り、まずはSさんが担ぎ上げてくださったビールで乾杯!  
目の前には赤牛岳が堂々と横たわっていた。稜線上に建つ小屋なの

で水場はない。Sさんはなんと5リットルの水を持ってあがったそうだ！！

### 1日(日)曇りのち晴れ

烏帽子小屋を後にして、コマクサの道を南下する。出だしは曇っていたがどんどんガスが取れてきて、槍をはじめ名だたる山々が姿を現してくる。色とりどりの高山植物が素晴らしい。展望と花、これぞ縦走の醍醐味！

三ッ岳、野口五郎岳は穏やかな砂礫の山。真砂岳を過ぎると岩稜の道になる。一旦下り水晶小屋までの200メートルの登りがきつい。小屋に着くころにはまた、ガスがかかってきた。小屋にリュックを置き、雨具の用意をして水晶岳に向かう。残念ながら水晶岳はガスの中だった。

水晶小屋は2900メートルの高所に建つ小さな小屋で、布団一枚に二人で寝たが、行き届いた気持ちのいい小屋だった。夕食後見事にガスがとれて、360度の大展望が広がり、北アルプス全部が見渡せるようだった。

### 2日(月)晴れ

抜けるような青空が広がっている。昨日登ってきた道を真砂分岐まで戻る。分岐から南真砂岳までは足元が悪く、慎重に下る。天気がよいので、暑くなってきてのどが渇く。槍ヶ岳がずっと私たちを見守ってくれているようについてくる。湯俣岳を登り返し長い長い竹村新道を下っていく。湯俣温泉の小屋が見えてからもなかなかつけなかった。

温泉の湧き出す河原に建つ晴嵐荘で、温泉に入りビールを飲んで元氣回復。食後、温泉から噴き出した硫黄がオブジェになっている噴湯丘を河原を20分ほど歩いて見に行った。暗くなってから、河原に掘られた露天風呂に女二人で入った。星空は見えなかったが、ぬるめのお湯に浸かって極楽、極楽。

### 3日(火)晴れ

今日もいい天気。高瀬川に沿って、高瀬ダムまで、平坦な道を歩く。川音を聞きながら、自然林の中の実に気持ちのいい道だった。最後に長いトンネルを抜けると高瀬ダムに出て、タクシーが待っていた。葛温泉に立ち寄り信濃大町からバスで帰宅した。昨年、一昨年と二年続いた雨トリオの汚名をを見事に返上した、晴天続きの山行だった。

(藤井 記)

例会山行  
《会津駒が岳・燧が岳・尾瀬が原》

【山行日】 2010年8月8日(日)～10日(火)

【参加者】 三島、林、藤井、勝尾(4名)

【コースタイム】

【会津駒が岳】取付点 11:05～水場入口 12:30/13:05～展望ベンチ 14:00～  
会津駒が岳 15:00～水場入口 16:30～駒が岳登山口 18:15

【燧が岳】沼山峠 BS・7:40～尾瀬沼分岐 8:45～ミブチ岳 12:00/12:30～  
俎岳 13:00～柴安岳 13:30～下田代十字路 16:25

【尾瀬が原】下田代十字路 6:40～竜宮 7:25～山の鼻 9:10～鳩待峠 10:25

【会津駒が岳】8月8日(日) 晴れのち曇り

宿泊先のクルマに送られて、11時過ぎ、階段のある取付点に立った。

取っ付きからジグザグの急傾斜である。汗が噴き出てくる。昨夜からずっと身体が乗車モードだったのだから無理もない。出発は遅いが、焦ることはない。ゆっくりとしたペースで、我慢しながら広葉樹に囲まれた道を登って行った。

やがて、少しずつ傾斜も緩んできて、樹林が開けてベンチのある所に着いた。水場の表示があった。左の沢に下って、湧水を汲み、昼食時間をとった。針葉樹も混じってきた道を登っていくと、ハイマツ帯となり展望も開けてきた。やがて、笹原となり、道も木道となった。

ベンチのある展望所で休憩をとる。左にとがった屋根の小屋が見え、右正面にのっぺりした山が見える。目指す駒が岳はその山の左端で、右の方に向かってあまり変わらない高さで稜線が延びている。ここから見る駒が岳は形が悪い。きりっとした駒が岳を見るのは明日まで持ち越すことにした。

赤トンボがたくさん飛んでいて、思わず踏みつけそうになる。だいぶん色づいているので、里に下るのももうすぐだろう。今年は当たり年と聞いていたコバイケイソウはすでに退色していたが、ハクサンコザクラは一か所だけ小さな群落で存在感を誇示するかのようきれいに咲いていた。駒大池の脇を通過して、木道伝いに左から回りこんで直登していった、笹の少しだけ開けたところが会津駒が岳の頂上であった。15時。ガスがかかり、静寂につつまれていた。残念ながら展望板に表示されている山々はすべて見えなかった。

期待していた中門岳への伸びやかな湿原の佇まいも望めなかったが、少し下ったところから見下ろした駒の小屋と駒大池の組み合わせが印象に残った。

3時間ほどかけて、往路を下った。駒が岳登山口着18時15分。

当日は50人ほどの登山者と出会った。バスで入山したのは、我々だけであるから、ほとんどはマイカー利用と考えられる。



**[燧が岳]**8月9日(月) 雨のち曇り

川の水音で気がつかなかったが、目を覚ますと雨が降っていた。宿を発つ時、玄関でご主人が記念写真を撮ってくれた。早朝のバスで沼山峠バス停まで移動し、雨支度を整えて、7時40分歩き始める。沼山峠を越える緩やかな木道である。

7月にはニッコウキスゲで華やかな大江湿原もひっそりとして、コバギボウシやワタスゲが目立つくらいである。雨も止んだので、分岐点で雨着を脱ぐ。

長英新道の登りに入る。傾斜はないが、木の根が張って、ぬかるんでいて、大変歩きにくい。輪切りの木や長尺の木が渡してあって、その上をバランスをとりながら歩くようになっている。その通りにいかないところもあり、泥道の中を気を使いながら登っていったが、時間もかかるので、そのうち汚れることも気にしなくなった。結局2時間ほど沢状地形の泥道に難渋したことになる。

やがて、風の音が聞こえ出し、踏み固められた稜線に出た。ガスがかかかっていて、風当たりが強かった。ガスの隙間にお椀を伏せたような山が見えた。

それはミノブチ岳だった。広い山頂で、周りをハイマツが囲んでいた。展望はなし。ハイマツの陰で風をよけて昼食とした。

俎岳の頂上は望めなかったが、上へ上へと岩稜帯を登って行った。一等三角点のある頂上は展望ゼロ。最高峰の柴安岳へ向かう。目標がガスで見えないので、磁石で確認した。鞍部まで下りた辺りで、ようやく柴安岳の全貌を捉えることができた。

柴安岳の頂上は広く、展望はなかったが、ゆっくりすることができた。

下田代に下る。強かった傾斜が緩くなった後の道のりも長かった。心配していたぬかるみはそれほどでもなかった。尾瀬小屋着16時25分。

部屋は西南角の201号室。バルコニー付きの、見晴の名に恥じない部屋だった。時間に余裕があったので、夕食のあと消灯時間まで歓談できた。

**[尾瀬が原]**8月10日(火) 曇りときどき晴れ

小屋を6時40分出発。今日は尾瀬が原の木道を歩くだけの時間的にゆとりのあるコースだ。もう夏の日差しはなく、秋を感じさせる気配すらある。行き交う人もまばらなのはよいのだが、草花には見所がなく、幾分単調ではある。ベンチのある所で、何回か長い休憩をとって、山の鼻に9時10分に着いた。

ここで個人的に確認しておきたいことがあった。10数年前の秋にテントを張った場所をもう一度見たかったのである。ビジターセンターの前に、かすかな記憶に残っているその場所が今でもあった。そういえば、その時も男2・女2の4名で来たのだった。当時の思い出を懐かしんでいると、体力は落ちてしまったが、再び来ることができた喜びがこみあげてきた。鳩待峠までは登りとなり、大勢の入山者？と出会うことになった。ポッカの人も3人ほど見掛けた。鳩待峠には10時25分に着いた。  
(記録・三島啓民)

## 室内例会だより

【日 時】 2010年7月25日（日）15：00～17：00 事務所

【出席者】 島崎、多賀、三島、田中悦、田中初、辻、村田、都築、  
藤本、林、勝尾、杉村、内田、藤井（14名）

### 1、山行報告

6月21日（日）例会山行 愛宕山 L平田 7名

7月4日（日）例会山行 弥山 L多賀 9名

7月4日（日）県連山行 ハイキングリーダー学校 堂満岳 島崎、藤井

7月17日（土）自主山行 釈迦ヶ岳 L島崎 3名

### 2、山行案内

7月30日（金）～8月3日（火）平日山行

北アルプス 野口五郎岳～水晶岳 L藤井

8月7日（土）～10日（火）例会山行

会津駒ヶ岳、燧岳 L三島

8月20日（金）～8月22日（日）例会山行

南アルプス 甲斐駒ヶ岳、仙丈岳 L辻

8月28日（土）～8月31日（火）平日山行

南アルプス 鳳凰三山 L島崎

### 3、連絡その他

- ・9月18日 土庫病院ハイキング講座

「山登りと腰痛・膝通問題」講師 峯隆子さん

- ・山行リーダーは山行計画書を参加者全員に送ること。  
計画書のフォームを統一すること。
- ・会員間の電話連絡は、基本的には携帯にする。
- ・遭対基金の申し込み口数の確認、来月に集金する。
- ・例会終了後17：30より王寺駅前 くらべえで暑気払いをしました。

参加者 14名

第 339号 (2010年9月号)

# 西大和つうしん

2010年8月26日発行

発行責任者 島崎 隆

編集責任者 辻 康司

奈良県勤労者山岳連盟 西大和山の会  
〒636-0003

奈良県北葛城郡王寺町久度 1-9-32  
窪田友男方

TEL・FAX 0745-72-2876

<http://www.nishiyamatoyama.com/>